

1 田んぼアートの目的

日本人の主食である米に対する興味を高めるためにまず田んぼに足を運んでもらうきっかけを作ること。そして稲の生育を鑑賞してもらうことから、「食農教育（食育）」を意識してもらうこと。

2 田んぼアート面積

18アール 57m×33m

3 栽培品種

- ・田んぼアートの図・・・緑米（古代米）
- ・図以外の部分・・・ヒノヒカリ（うるち米）

4 田植え

日時：6月9日（土）午前実施 午後は図以外の補植

参加者：たんぼぼ園の年長 小学生（学童） 保護者 指導者で実施

5 米の消費量の変化（大人一人当たり）

昭和37年 118kg

平成21年 59kg

平成27年 54.6kg 年間一人当たりの消費量

※1日お茶碗約5杯（精米315g）→約3杯（172g）、1杯57g

※一人が1年間に食べる米の水田は1.2a 11m×11m

6 日本の田んぼアートの歴史

(1) 青森県田舎館村の田んぼアート

- ・平成5年度から始まり、平成29年度で25回目になった。小さな村から生まれた稲の芸術は、今や全国のみならず世界から注目されるまで成長した。
- ・北方稲作文化発祥の地といわれるほど長い米作りの歴史を持つ。その米を使い村おこしにつなげようと25年前役場職員の発案で田植えツアーがはじまった。
- ・田植えツアーは、1993年5月30日に第一回開催。参加人数100人。この当時は「アート」ではなく「稲文字」といわれていた。

7 大村城南高校の田んぼアートの歴史

平成20年度から始まり平成30年度で、10回目

図案内容

*第1回 平成20年 JONAN

*第2回 平成21年 猿蟹合戦

- *第3回 平成22年 NHK大河ドラマ『龍馬伝』⇒龍馬田
- *第4回 平成23年 東日本大震災復興農業クラブ全国大会
カステラ、タツノオトシゴ
- *第5回 平成24年 長崎がんばらんば国体
- *第6回 平成25年 V・VAREN長崎
- *第7回 平成26年 長崎がんばらんば国体 がんばくん、らんばちゃん
- *第8回 平成27年 平和記念像と70
- *第9回 平成29年 大村城南高校の校章
- *第10回 平成30年 V・VAREN長崎のVIVIくん

8 田んぼアート制作方法

(1) 図案の作成

- ①デザインの公募（アンケート調査）・選考・決定（部員）
- ②図案・文字の検討（田んぼアートの見栄えを検討）
- ③図案を方眼紙に写す（1/100図、最低50cmは確保する）
- ④座標点を方眼紙の図案に書き込む
- ⑤方眼紙をラミネート加工する

(2) 田んぼアート田植えの方法

- ①5m間隔に180cmの支柱を立てる
- ②座標点に75cmの支柱を立てる
- ③75cmの支柱をひもでつなぐ
- ④ひもで囲んだ内側に「緑米」、周りに「ヒノヒカリ」を植える

製作者 中島 歩美（3122）課題研究